



# 芝小だより

## 第十一月号

開校百四十周年記念式典を迎えるにあたって

校長 齋藤幸之介

校長室には数枚の航空写真が掲示されています。もっとも古いものは百周年記念のときのものです。「スーパービル」とも言われる日本電気本社ビルは建設中で、現在三菱UFJ信託銀行やセレスティンホテルがあるところにはまだ民家が多数見られます。本校も旧校舎でありました。ここ四十年の間に学校の周囲は大きく変わったことが改めて分かります。一方で、本校の北北西方向には東京タワーが立っています。完成からすでに二十年になろうかという東京のシンボルは、今でも色あせることなくその存在を誇示しています。また、江戸幕府開府の頃から存在する増上寺は、本校周年の歴史の深さを今日まで伝えてくれています。

それから四十年が経ち、芝の町はさらに新しくなりました。この写真の五年後に校舎が新しくなりました。町の変化・発展と共に学校も変わっていきましました。新しい航空写真と並べてみると、様々なことに気付かされます。

十一月十七日、皆様の多大なるお力添えで、開校百四十周年記念式典を挙げる運びとなりました。過去の記念誌等を読みながら、改めて本校の歴史の重さを感じています。

### 学校がわかる、ふしぎな

江戸無血開城のための会議が開かれた蔵屋敷にほど近い

発行所 港区立芝小学校  
〒105-0014  
港区芝 2-21-3  
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)  
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



芝区新堀町に開校したのは明治十二年、学制が公布されてから七年後でありました。近代化という新しい世の中で活躍する人材を育成することも当然の役目であり、それを芝の地でいち早く果たそうと取り組まれていたわけです。明治二十五年、学年によっては一部「外国語」を学んでいたとの記録もあり、本区の先頭をきって行われてきた現在の国際科と相通じるころがある、と感激もします。改めて、本校が開校した意味を捉えることができます。

### 学校が続いていく、ふしぎな

その後、児童数の増加等に伴い、いくつかの学校に分かれていきながらも、本校は確実に歩みを進めていきます。しかし、一方で私共の諸先輩方は何度も苦境を乗り越えていらっしやいます。

太平洋戦争時の状況は今後も伝えていく必要があります。学童疎開、空襲等による学校の焼失など、大きな苦勞が本校にもやってきました。これらを単なる事実として捉えるのではなく、「いかに大変であったか」ということをより具体的に残していかなければと思っています。

戦後の復興はめざましく、冒頭に取上げた東京タワーは、高度経済成長の象徴的な存在であったと言えます。そんな中、昭和三十九年には制服が制定されます。記録には「集団行動の上でも、経済的にも良い結果を生み」とあります。昨年度の卒業式、壇上から見た卒業生と五年生の一層凛とした制服姿は誇らしく感じられました。

平成元年から竹芝小学校と共に歩み始めたことも、決して



忘れてはならないことと思っております。

本校も少子化の影響を受け、児童数が減少した時期もありましたが、地域の皆様、そして諸先輩方の並々ならぬ御努力があつて本校が今日まで存続されました。一層魅力ある学校にと工夫された様々な取組の意味を改めて噛みしめる大切さを味わっています。

総じて、長きに亘って学校が存続される難しさを改めて感じています。そして、時として世の中の大きな変化に呑み込まれまいと力を発揮されたその大きさを今後に生かしていきたいと思っております。

### 節目を経て、未来へ

その他、今回触れることができなかった事象は山ほどあります。そして、実は日々の教育という営みはさらに目立たず、しかし子供たちの成長を支えるべく淡々とそして確実に行われてきたことを忘れないようにします。

歴史とは「現在と過去の間の風ぎぬことを知らぬ対話である」(E. H. カール)とされています。これからも、私共は本校の歴史を振り返り、そして歴史から現在を自己評価する場面をもちたいと思えます。さらに、本校の未来は過去と現在を礎としながら、新しい社会に対応すべく取り組まれていくことを確認してまいります。

記念式典が過去・現在・未来をつなぐ一つの節目になるように、子供たちと共に一日を過ごしたいと思っております。改めて、御理解と御協力の程よろしくお願い申し上げます。